

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人 せいわのわ 清和幼稚園

1. 本園の教育目標

- 人として自立した生活を営むために、生活リズムと基本的な生活習慣を身につける
- 体を目一杯使って活動することを通して、体力や気力を養う
- 他人の気持ちや考えを大切にすると心や態度を養う
- 日本の伝統的な作法の基礎を学ぶ
- 他の生物の命を頂くことによって、自分の命が維持されていることに感謝する心を養う
- 他人とのよい関係を築いていくために、豊かな言葉を身につける
- 自然事象や美しいものに触れる中で、五感を磨く
- 美しいものや感動したものを表現しようとする意欲を養う

2. 本年度重点目標・計画

- 子どもたちと職員が主体的に様々な物事に関り取り組もうとする園を目指し、カリキュラム・マネジメントを見直します。
- 職員それぞれに応じた課題を設定します。
 - 乳幼児教育における見方・考え方についての理解を深めるために保育カンファレンスを行います。
 - 年間指導計画を捉えつつ子どもの実態により応じた月案を作成します。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況	評価
1	各職員の課題への取り組み	各職員の経験や職歴に合わせて課題ないし役割を決めて取り組んだ。その中心的な課題が、項目2・3である。課題が難しい時には、経験したことのある職員が一緒になって行いフォローする姿もあり、出来たときには達成感を感じている職員の姿や行う前後では仕事に対する姿勢が変わったと思われる。	B
2	乳幼児教育における見方・考え方についての理解の深まり	乳幼児教育における見方・考え方（幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになるという見方・考え方）についての理解は、職員によって個人差がある。したがって、エピソード記録会や職員会の中で無理のない形で理	B

		<p>解を深めていきたいと考え、それらの持ち方を試行錯誤してきた。様式を変更し付箋を使って意見交換することで、話し合いが豊かになり、参加した職員から「勉強になった」「楽しかった」等の前向きな声が聞こえてきた。年度当初は数ヶ月に1回の開催だったが、月に1回開催できるようになりつつある。</p> <p>また乳児クラスと幼児クラスのエピソード記録会を合同で行うようにしたことで、お互いの保育を知ったり職員の交流の場にもなったりしている。</p> <p>まだ個人差はあるが前向きに意見を出し合う姿があり、少しずつ理解を深めることが出来ているように思われる。また経験年数や担当学年が違う職員からの話は新鮮で保育の参考になっていると考えられる。</p>	
③	年間指導計画や子どもの実態に応じた月案の作成	<p>昨年度末に、カリキュラム・マネジメントについての職員の理解について、園長、主任保育士、クラス担任1名で話し合った。本園では、保育実践に関する資料を累積し活用して指導案を作成することにしてはいたが、全員が適切に活用して月案を作成できているわけではない状況にあった。そこで、月案作成から理解を深めていくことが適切ではないかと考えた。そして、幼児クラスで職員研修を行った。話をして、できるところからでいいからやってみよう実践していった。研修後、学年ごとでの話し合いや日々の保育の後に相談をし合っている姿が増え、課題はあったが月案も少しずつ実践しやすいものになり活用できるようになってきていると思われる。またその年度の学年の姿にあった計画が、見られるようになってきていた。</p> <p>月に1回行う、担任（乳児クラス・幼児クラス）参加の月案を用いてのカンファレンスでは、月案の作成においてそのときに出来る無理のなさそうな課題を示したり、良い点や改善された点等があればその都度共有して他の学年でも活用できるようにしたりした。1か月ごとに前回の作成より実践的な月案が作成出来始めてきた。12月の月案作成から主任保育士が月案作成の話し合いに参加することとなり、それぞれの学年の話し合いの仕方や記入方法で良いところを職員会の中で伝え共有していつているところである。年間を通して課題であった好きな遊びの</p>	B

	<p>部分の充実、次年度も参考にしていける記入の仕方については理解が深まってきている職員もいる。幼児クラスは学年で話し合い月案の作成がより実践的なものになり始めている。乳児クラスは学年での話し合いの時間が取りにくく、フリーや幼児担任が保育に入り話し合い時間を設けることにして改善を行っている最中である。今まで乳児クラスと幼児クラスの月案を用いてのカンファレンスは別々だったが、11月より一緒に行える環境を整えて行い共通理解を深めているところである。</p>	
--	--	--

評価の基準 (A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取り組まれているが、成果が十分でない D: 取り組みが不十分である)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の子どもたちの発達を見る目が少しずつ良くなってきている。乳児と幼児のつながりがある保育を行うための職員の共通理解も進み、前向きな姿が見え始めている。 ・3つの項目について試行錯誤しながら取り組んできた。職員により個人差があるが成果が出ているものと、十分でないものがある。次年度も引き続き取り組みを行っていきたい。

5. 次に取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み内容
エピソード記録会の更なる充実	<ul style="list-style-type: none"> ・エピソード記録会の持ち方を継続していき月に1回の開催を継続し、乳幼児教育における見方・考え方についての理解・考え方についての理解を深めていく。 ・職員一人一人が話をしやすい環境を作っていく。 ・園全体として“理解を深める“という部分ではまだまだ課題がある為、これを継続していくと共に今までは担任が中心で行ってきたが、フリーの職員も一緒になり行えるようにしていき全体で理解を深めていく。
月案の作成の質的向上	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の月案を蓄積し来年度に活かしていく。 ・乳児クラスと幼児クラスで繋がりがある月案を作成していく。
学校評価への保護者の更なる反映	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に日々の保育や行事等の満足度の把握をし、保育や次年度の行事に対して活かしていく。

6. 学校関係者の評価

【清和幼稚園 父母連絡協議会 会長】

乳児クラスでは、先生同士・子どもと先生の交流が沢山ありました。1歳児クラスの先生が楽しそうにしているのが印象的でした。2歳児クラスの絵本の時間では、立ち上がってしまう子どもには、サポートがついて安心しました。0歳児クラスでは子どものエピソードを職員間で共有して沢山褒めていて、子どもと一緒に喜んでいるところが良かったです。

幼児クラスでは、担任と補助の先生が良くやり取りされている印象でした。部屋を離れてしまうときもよく声掛けをしていました。5歳児クラスは何気ない場面での姿勢が良く、日頃からの取り組みの積み重ねが見て取れました。また“自分のことは自分で”という自立を感じました。

【会社経営者（当園理事）】

公開保育を拝見し指導が行き届いている印象を受けました。職員間の連携などの姿から組織力が上がっているように感じました。

遊びの中で職員の方々はその子どものタイプに合わせて関わり方を変え、言葉をかけていると感じました。また環境構成に注目するとマットや机でエリアを作り、環境を整えていて子どもたちが遊びに夢中になれる環境作りが行えていました。全体的に各学年のねらいを実現しているように感じました。

【学校法人 若葉台学院 理事長】

クラス毎に子どもの様子に配慮した遊び、コーナー設定がなされており、自由に遊びの切り替えができるオープンな物的・人的環境が備わっていました。乳児クラスは愛着環境が育つ関わり、支援が見られました。補助の職員も適切な配置がされていました。

子どもたちの人間関係は非常に豊かで、他児との折り合いを上手につけたり、丁寧な言葉掛けや抱きしめたりするなどの自発的な関わりにより円滑な集団生活が送れている様子が見てとれました。積み木・絵本のバラエティーなど優れた物が多く望ましい（羨ましい）園だと感じました。

【国立大学法人 岡山大学 准教授（専門：幼児教育学）】

雨の中、室内の活動のみとなり最初の頃は落ち着きにくい感じでしたが、途中から落ち着いて子どもたちが遊んでいました。先生方の子どもに応じていこうとする姿が見られこれから更に一人一人の心持や発達に応じた関りがなされることが期待できそうです。

今年度行われている、乳児クラスと幼児クラス合同で話し合う時間を確保するという取り組みが、特に重要になるのではないかと思います。次に取り組むべき課題も現状に応じた適切なことではないかと思います。